

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型サービスとは何が大切かを管理者と職員で話し合い、現状にあったケア理念を作り実践している		地域の一員として心穏やかな生活を、いきいきと自分らしく送られる様支援します。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を印刷した物を携帯する事で意識付けを行っている、また意義を理解し日々確認し合う事に努めている		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホーム内に理念を掲示する。また重要事項説明書やパンフレット等明記し運営推進会議等理念について説明を行っている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会、老人クラブに入り、行事に参加する事で、顔見知りとなり挨拶から始まり、町内のカラオケ等に誘って頂いたり、野菜を届けて頂いたりする関係が続いている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会カラオケ、草取り、花壇作り、町内連合会のお祭りに誘って頂き交流が出来る様になった。 行事ごとに町内の方が誘いに来てくれる事で積極的に参加されている		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム前にテーブル、ベンチを設置した事で、交流の場を提供する事で利用者さん地域の方が気軽にお茶に立ち寄り、ホーム便りを町内に回覧して頂き、ホーム行事やワンポイントアドバイスを記載し役立てて頂く工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>地域の方からの情報を頂きリハビリを兼ねパークゴルフに挑戦している</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>月1のペースで市役所へ訪問し情報発信して頂く為訪問する又介護課包括の方と連携し質の向上に取り組んでいる。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>包括支援センターに勉強会の依頼をしている</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>交替で状況に応じて野外での休憩を取れるようにしている</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約時の説明には時間を掛け十分に行なっている。又退居、転移時情報提供やご紹介を行なっている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>管理者、職員が窓口となり、対応を行なっている又利用者様、が外部者へ意見、不満を表せる様、近隣者ボランティア等に相談、苦情を伝える機会を作っている。年数回親睦を兼ね、地域の方、運営推進会議メンバーの方達との交流の場を設けている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>月1度、近況報告を兼ね個々へ宛した手紙、ホーム便り、小遣い出納長の写しと領収書を添付し来訪時又は郵送している。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見等があった場合は個別対応している。アンケート箱設置しているが投函された事がない為アンケート内容の検討し ×で意見を頂く工夫を行っている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>何でもノートを作り、意見、提案を好きな時に無記名で書き込んで頂く事を促すと共に状況に合わせ話合いの時間を設けている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>出来る限り調節して勤務を組み柔軟な対応に心掛けている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>学独事業所の為職員の移動は行っていないが、離職については最小限に抑えるよう努力を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の育成の為に外部研修を受講出来る様研修の情報を提供し、希望者が受講出来る様に取り組んでいる。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>近隣地区のグループホームと打ち合わせ、互いに交流する機会を作っている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>運営者として出来る事を見極め積極的に環境作りに取り組んでいる</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者や職員が向上心を持って働けるように、努めている</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>居室に訪室する時間を増やしたり、散歩に誘ったりし話が出来る機会を作るよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族来訪時、又は電話などで職員より声掛けをし話合う機会を作る様に努め、利用者変化時には、その都度連絡を取り合い状況に応じて面談を行う様に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。」	相談時に入居の案内をすると共に、御家族や明確に関係各所の方々、及び本人様の意見に詳しく話しを聞き相談しながら1番必要な支援は何か見極める様にしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	その都度御本人様、御家族様との話し合う時間を持ち、馴染みの家具、食器類等使用して頂く事で、雰囲気作りを行う事で徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	どの場面でも職員が主導権を握らず、利用者の主体性を大切に、職員は待つことの意識付けを心がけ一緒に様々な事を行うことによって支えあう関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居時から通信や来訪時日常の状況報告又は、御家族と一緒に参加して頂く行事等も向けコミュニケーションが取れる様な御家族を巻き込んでの支援に努めている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	アセスメントにより、入居以前の御本人様、御家族様の関係は把握している。それを理解し常に情報交換しながらよりよい関係が築けるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人様がこれまで大切にしてきた馴染みの方と通信等を利用したり、又来訪の声掛けをしたり、必要に応じて御家族様の協力のもと、外出、外泊の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しないよう、食事の際の席順、作業、外出と常に関わりを持てる様配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在は契約終了後継続的な関わりを必要な利用者様、御家族様はおられませんが必要時その都度対応行なっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に会話を持つ事に努め本人の希望、意向の把握に努め、出来る限り本人本位の生活出来るよう支援に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式のアセスメントシートを利用する事で御家族様、本人との会話の中からこれまでの生活環境、習慣、馴染みの暮らし方等を見つける為の情報収集を行っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	他方面からの御協力を頂き医療、介護、地域の方、御家族、ボランティアの方からの意見、アドバイス等から総合的に把握する様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御本人、御家族はもちろんの事、他職種の方からのアイデア、アドバイスを反映したり、出来る事、出来ない事の見きわめを行い、力量にあった利用者本位の介護計画の作成に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	適時必要に応じて見直しカンファレンスを行い柔軟な対応が出来る様現状に即した計画を作成する事を努め、介護計画を職員間で共有し支援に努めている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子、気づきや変化を個別に記録に残し職員間で状況を把握し統一した適切なケアを行えるよう必要に応じてカンファレンスを行っている		個人記録の他、連絡ノート、医療ノート、何でもノートを活用し情報共有する事に努めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	時々々の要望に応じて、事業所での出来る限りの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、包括支援センター、消防、警察、地域の方の協力しながら、日々の生活を快適に送れるよう支援している。		南空知地域リハビリテーション広域支援センターの活用行っており、個別指導等の活用を行っている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスの利用必要な方希望者がある時はその都度対応出来る支援を心掛けする。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	権利擁護事業について理解を深め本人の希望や必要性が生じた時に対応出来るよう地域包括支援センターと協働を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個別にまた希望により、かかりつけ医また、往診時状況に応じて御家族様同伴され、主治医に相談しながら支援を行っている		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	職員の気付等往診時主治医に相談したり、往診日を事前に御家族様に連絡し誘致する事で御家族様が直接主治医に相談が出来る又、必要に応じて病院、医師の紹介がある。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関と24時間連絡が取れ指示を仰ぐ事が出来る体制を取っている		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者と相談や情報交換する事で早期退院の支援を行っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族、主治医との連携により職員間で共有し支援に取り組んでいる。		終末期ケア時スムーズに対応出来る様日常より、本人、家族、医療機関等と連携を取る事に努めている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所として、重度化、終末期ケアの指針を基に対応に努める		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居の前後には、御本人様、御家族様との話し合い御本人様に係る関連関係者との情報交換を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	御本人様の尊厳を傷つける事のない様言葉掛け、対応を取っていることはもちろんプライバシーを損なわないよう心掛け支援を行っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	出来る限り自己決定の場面を作り自ら自己決定出来るよう、本人の力量に合わせ書面、絵文字等で対応している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	待つ介護を合言葉に一人一人のペースに合わせて希望に添った日々の暮らしが出来る様支援を行っている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個々の個性を尊重し希望する美容室への付添や送迎を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材購入時利用者さんの希望を取り入れた献立等取り入れ個々の力量に合った作業に参加して頂ける様職員と一緒に準備から片づけまで行っている。最近では積極的に「何か手伝いは無い」との声が聞かれる事がある		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者様の生活習慣に合わせて、健康管理に配慮しながら日常的に楽しめる様、喫煙、飲酒される事がある		喫煙、飲酒時は必ず職員がそばに付き危険のない様見守っている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	羞恥心等の配慮に心がけ本人にお任せする部分を持ちながら、排泄誘導、セルフケアを行っている		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望により、入浴時間、日時など配慮し身体状況に合わせ、お任せする部分、援助する部分を見きわめ不安のないよう支援を行っている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の現状に応じて、表情、態度などから判断し居室での休息又はお茶等の声掛けを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の出来る事、出来ない事を日常生活の中から見きわめ又生活歴からも習慣や好む事を把握し個別対応に心がけ支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者一人一人の希望や力量に応じて支援している。 ホーム管理している金銭以外でも個人で金銭管理ノートを用意し自己管理されている方もいる。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩に出かける方、町内会館でのカラオケ等に参加したり、喫茶店へ出掛けたり希望にそった戸外への支援を行っている。		食材の買出し時希望される利用者さんと職員が一緒に出かける事を行っている。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者さんの希望時、お寺、お墓参りや外出に出かけたり又御家族様と温泉旅行に出掛けたりその都度対応行なっている。		御家族様の御協力を頂き本人の希望に添える様御家族様と連絡を取り合っている
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自ら希望される方もあり、利用者様のプライベートに配慮しつつ支援を行っている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	御家族様、御友人が気軽に立ち寄って頂いており、泊まって行かれることもある。訪問時間と宿泊に制限なく対応行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての勉強会等行い拘束のないケアに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵を掛けない取り組みが出来ている		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	常に目配り、気配りする事で安全に配慮に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	注意すべき物品を所定の場所に保管する事と共に施錠することを実行している。 管理方法も職員間で統一している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に 応じた事故防止に取り組んでいる。	ミーティング等に個々の事故防止の為対応方法を話し合い職員一同熟知してい る。		個別に緊急対応マニュアルを作成している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全 ての職員が応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行っている。	通常よりマニュアルの把握に心掛けていた為、実際の緊急時の対応に活用されて いる。		定期的に救急救命講習を受講している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ よう働きかけている。	町内会総会等に参加し地域の人々に協力が得られる様声掛けを行っている。		連絡網作成の協力を自治会の協力が得られれば直ちに作成を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	来訪時又通信などで説明させて頂き又来訪時は詳細にリスクや現在の状態報告し御家族と一緒に対応策を話し合っている。		毎月個々宛に近況報告の手紙を郵送している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェック、食事、水分摂取量及び排泄など細かに記録し残し職員間で情報共有し日常より表情、顔色、歩行状態の観察し主治医との連絡を24時間体制で連携している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方される時点で、薬剤師来訪されその都度説明あり、医療ノートにより全職員で情報を共有し症状観察を行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量の把握、起床時のお茶、また牛乳、ヨーグルト等食事面の工夫を行っている。又、散歩、体操等で便秘解消を行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	定期的に歯科医往診あり、口腔ケアの指導管理を行っている。		月2回の歯科医による口腔ケアを行っている
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事摂取量、水分飲水量を把握し記録に残し体調に合わせて、お粥、麺類又野菜嫌いな方へは、野菜ジュース等で対応を行ない、1日1500～1700カロリーを維持している。利用者さん一人一人の好む物、嫌う物を把握する様心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年インフルエンザの予防接種を行っている。手洗い、うがい、消毒を日々行っている。台所、浴室、トイレ等毎日清掃、消毒を業務の中に取り決めとしている。感染症予防マニュアルも設置している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材購入時新鮮な物、賞味期限等に心掛け台所調理用具、布巾等業務の中で毎日消毒する事を取り決めとしている。冷蔵庫も定期的に掃除、消毒を行っている。冷蔵庫内に寒暖計を設置し温度管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周辺には花を植え、ホーム前にはテーブル・ベンチを設置し親しみやすく開放的に安心して出入り出来る様に工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間での不快な音や光に注意しカーテン等で調節をまめに行い、リビングには季節の植物など飾って居心地よく過ごされるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれる、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室以外に一人になれる場所として窓際に椅子を設置したり、外のベンチに休息されたりと、思い思い自由に過ごされている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時より御本人の使い慣れた家具、食器等持参される様アドバイスする事で、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>84 換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>状況に合わせ、窓を開けたり温度調節に加湿器や濡れタオル等に対応している。日常的に適時換気を行っている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、階段の両側の手すりに加え、玄関には昇降機を設置している。通常は歩行訓練を兼ね、皆様階段を利用されている。</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個別に出来る事、出来ない事、したくない事を把握し一つでも出来る事を増やしていく環境作りを心掛けている。</p>		
<p>87 建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ホーム前に花壇、又個別に居室のベランダ等にプランター等を用意して野菜等を育てている方もいる。職員は見守りで援助している。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

グループホームを施設として捕えるのではなく、自宅として考え自分の家で生活しているのと同じように生活できるよう援助している。
地域に密着したホームとして地域の方々に仲良く暮らし、安心して生活出来る環境を提供している。
ホーム前には白樺の木がありとても綺麗である。入居者様は自然を楽しむことが出来て喜ばれている。